

# 1 公園とは

(この章では、公園愛護会活動に必要な公園に関する基本的な事項を抜粋し、簡略化して記述しました)

## (1) 公園とは、その種類

### 横浜の公園

横浜市内には山下公園や港の見える丘公園など全国から観光客が来る公園、ズーラシアなどの動物園から、身近な公園まで2483の公園があります。その面積は約1493ヘクタールあり、市の面積の約3.4%を占めています。

### 公園の種類

公園はその大きさや機能により分類することができます。

#### 街区公園

最も数が多く市民生活に身近な公園です。

全公園の約86%を占めており、おおむね1つの小学校区に3公園以上配置するよう計画し、整備されています。(以前は「児童公園」と呼ばれていたものです)

#### 近隣公園

街区公園よりも大きな規模の公園です。街区公園に運動ができる広場機能や、樹林地など地形を生かした整備が行われています。全公園の約7%を占めています。

#### 地区公園

街区公園、近隣公園よりもさらに大きな公園が地区公園になります。広さの特長を活かし、野球などのスポーツができる施設を設置したり、自然環境を保全するなど、地域の特徴や地形を活かした公園となっています。全公園の約2%を占めています。

#### その他の公園

これら以外にも市域レベルの広い範囲の利用を見込み設置される運動公園や総合公園、緑道、風致公園などさまざまな公園の形態があります(次ページ表参考)。

都市公園の種類(抜粋)

種類	種別	主な内容	公園数	管理者(1)	
基幹公園	住区基幹公園 (身近な公園)	街区公園 (旧児童公園)	主な施設として、ブランコ、すべり台、砂場などの遊具、ゲートボールができる程度の広場や植栽、ベンチ、水飲みなどを設置しています。横浜市では小学校区に、3箇所を目標にしています。	2166	土木事務所
		近隣公園	主な施設としては、上記街区公園の施設に加え、少年野球や地域のイベント、防災訓練などの多目的な利用ができる広場や樹林地などがあり、面積は概ね1ha以上となっています。	180	土木事務所
		地区公園	面積規模の特長を活かして、運動ができる広場や、散策など自然とふれあえる樹林地を活かした公園などがあります。面積は概ね2ha以上となっています。	43	土木事務所
	都市基幹公園	総合公園	市民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用を目的として整備しています。自然環境や地形、歴史など地域の特色を活かした公園が多くあります。	11	公園緑地事務所
		運動公園	市民全般の主として運動を目的とする公園です。主な公園では、新横浜公園、三ツ沢公園、清水ヶ丘公園があります。	6	公園緑地事務所
特殊公園		風致公園、歴史公園等特殊な公園で、敷地の特徴や歴史的な建造物を活用した公園などを整備しています。	14	公園緑地事務所	
広域公園		市域を超えた広域の利用も見込めるレクリエーション拠点として整備する公園で、横浜市では、緑の7大拠点において、こども自然公園、横浜動物の森公園、金沢自然公園、舞岡公園を配置しています。	4	公園緑地事務所	
緑道		災害時における避難路の確保、市街地における都市生活の安全性及び快適性の確保等を図ることを目的として、設けられる植樹帯及び歩行者路又は自転車路を主体とする緑地です。	17	土木事務所	
その他		都市の自然的環境の保全を目的とした都市緑地や、市街地の中心部の商業・業務系の地域にある広場公園などがあります。	42	主に公園緑地事務所(2)	
			2483		

- 1 土木事務所が管理する区分の公園の一部では公園緑地事務所が管理しているものもあります。
- 2 広場公園は土木事務所が管理しています。

大きさの目安：小学校の敷地が1haを目安に作られています。つまり、近隣公園一般的な面積は、小学校と同じぐらいと言えます。

### ③公園の機能

公園に求められる機能は大きく分けると、4 つに分類されます。

#### ○ 都市環境維持・改善の機能

近年問題となっているヒートアイランド現象を減少されるための気温の緩和などの効果があり、省エネルギーに寄与しています。また、市街化が進み少なくなってしまう昆虫などの身近な生物が生息できる環境を作っています。

#### ○ 防災機能

火災が起きた際の類焼の遅延や防止のほか、地震などの災害が発生したときの避難場所としての役割があります。このほかにも降雨時の雨量の調整や洪水の防止機能を持っています。

#### ○ 景観形成機能

都市化にともない減少している昔ながらの自然景観や、田園風景を公園の中で形成・保全しています。また、都市の中にまとまった緑があることにより都市景観に風格を与えます。

#### ○ 健康・レクリエーション機能

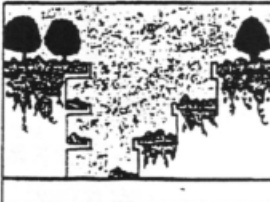
- 小さな子どもが安心して遊べる場
  - 散歩や休息などの場
  - 親子や子ども達が遊びや軽運動をする場(安全にボール遊びを行えるようにフェンスで囲った広場もあります)
  - ゲートボールや体操など健康増進のための場
  - 自然にふれあうことによる学習の場
  - 盆踊りや防災訓練などの地域イベントを行う場
- など、地域の方が日常的に利用する機能があります。

それぞれの公園では、公園の規模や特性、立地によりこれらの 4 つの機能を考慮して計画されていますが、公園の配置や規模が限られているため、公園を利用する人のニーズの全てを満足することは難しい状況です。

都市環境維持・改善の機能



気温の緩和、大気汚染の浄化

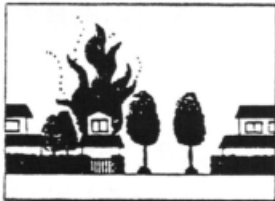


省エネルギー化に寄与



生物の生息環境

防災機能



延焼の遅延や防止



災害時の避難場所

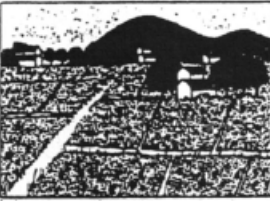


流量の調整、洪水の防止

景観形成機能



自然景観の構成



田園風景の構成

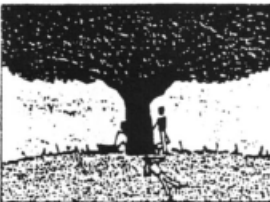


都市景観に風格を与える

健康・レクリエーション機能



散策・自然学習の場



休養・休息の場



運動・遊びの場

出典「公園緑地マニュアル」(社団法人 日本公園緑地協会、監修：国土交通省)

## ( 2 ) 公園ができるまで

これまでつくられた公園では、横浜市が整備した公園が面積では約6割、マンションなど住宅開発に伴って事業者が整備した公園が面積では約4割、公園数では約7割あります。ここでは横浜市が整備する公園ができるまでを簡単に説明します。

### 公園の計画

横浜市では、策定した「緑の基本計画」に基づき、公園や農地、私有緑地における緑の保全・整備計画がつけられ、計画的に公園の整備は行われています。地域の方に身近な公園については、小学校区を単位に配置状況やバランスを考慮して、公園整備に取り組んでいます。

### 整備内容の検討

公園の整備内容を検討するには、市民の方々の意見を反映させるように、多様な取り組みを行っています。

大規模な公園では、学識者や市民の代表からなる委員会方式や、公募した市民を含む委員会で、市民と市が協働して計画内容を検討する方式など、公園の規模や性格を考慮に入れながらさまざまな取り組みを行っています。

また、身近な公園では、地域の方の意見が整備内容に十分に反映され、利用しやすく、愛着が生まれるように、ワークショップ方式や意見交換会方式などの手法を採用しています。

### 用地の取得・整備

用地の取得や整備には、多くの経費が必要となりますが、国庫補助金を導入するなど、市税だけに頼らない工夫を図っています。小規模な公園では、単年度で整備を行います。規模の大きな公園は、数年間かけて整備を行っています。

#### 【身近な公園の住民参加方式】

##### ワークショップ形式

身近な公園を整備するときなどに、近隣住民の皆さんとともに公園の整備の計画を考えていくのが住民参加方式による手法です。その一つにワークショップ方式があります。

公園予定地の見学や、他の公園などの見学のほか、参加した人たちがグループに分かれ、話し合いとその発表を行いながら計画をまとめていきます。ワークショップには自治会長さんなどの近隣住民の代表に参加していただくほか、公募を行うことにより誰にでも開かれた運営が行われています。

##### 意見交換会

意見交換は地元説明会などの開催を通じて近隣住民の皆様と市が意見を出し合い、議論を重ねてプランを作る方法です。このような住民参加方式を採用することにより地域ニーズに即した公園の整備や、公園愛護会の結成など、整備後の円滑な公園の管理を行うことができます。

## 【ワークショップの風景】



公園予定地を参加した皆さん全員で見学します



グループに分かれて話し合いを行います



グループでの話し合いの成果を発表し、その結果を公園の計画に反映します